

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (大竹市立玖波中学校)

- ① 教科等 保健体育科 ② 学年 第2学年
- ③ 単元名 武道「柔道」
- ④ 本時の目標 技を身に付けるために、技の改善ポイントを見付けることができるようにする。
- ⑤ 学習の流れ (7時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 集合・整列, 挨拶 (座礼)</p> <p>2 本時のねらいと学習内容を 確認する。</p> <p>3 基本稽古を行う。 ○準備運動 ・体操, ストレッチ (二人組) ○体力を高める運動 ・腕立て伏せ, 腹筋, 背筋 ○受け身 (各種) ○固め技 ○既習技の確認と約束練習</p>	<p>・道場 (班) 毎に集合し, 班長を中心に機敏に行動させる。</p> <p>・安全面の注意事項を確認する。</p> <p>・めあてボードを使い, 簡潔に説明する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お互いに技の改善ポイントを見付けアドバイスしよう!</p> <p>・ボードに掲示しているメニューを基本とし, 道場毎に体力の程度に応じて内容や回数等を考えさせる。</p>	
<p>4 道場内昇段審査を行う。</p>  <p>5 道場対戦を行う。</p>	<p>・学習ノートを使用し, 「道場の昇段審査クリアポイント」を話し合わせ, 各自でどのポイントを観察するのかを確認させる。(全体場で発表させる)</p> <p>・道場内で「初段」～「三段」までチャレンジさせる。技のポイントを確認しながらできていないところを言葉や動作で相手に説明させる。</p> <p>・昇段審査に合格した場合は, 道場カードに「昇段シール」を貼らせる。</p> <p>・相手道場メンバーの得意技等を話し合わせ, 作戦を立てさせる。</p> <p>・勝った場合は相手道場の「看板」シールを自分たちの道場ボードに貼らせる。</p>	<p>・技の改善ポイントを見付けている。 〔運動や健康・安全についての思考・判断〕 (学習カード)</p>  
<p>6 学習の振り返りを行う。</p>	<p>・道場内昇段審査や道場対戦の結果から次の相手や道場のめあてを考えさせる。</p>	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 身に付けた技能のコツや知識を言葉や文章, 体で表現し伝えることができる。
- 対人競技や集団競技において, 相手に応じて作戦を立てられるように相手の特徴をとらえることができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 班内で話し合う活動を設定する。
(練習や作戦を考えたり, その練習や作戦を改善する方法などを話し合う)
- 話し合いのめあてを明確にする。
- 情報活用の方法を指導する。(動きの言語化や動きのポイントを焦点化する)